

人・生命・自然・
社会の生成、
調和、循環を
探究する。

AI導入から企業の生成構造の可視化へ

人とAIの共同知性で 企業の未来をつくる

AIは作業の代替ではなく、
人の思考を補強し、
ともに考え、ともに学び、
知・関係・価値の生成を支える
パートナーです。

仕事・人・組織・知が循環し、
よりよい価値が生まれ続ける企業へ

人

経験・文脈
価値・関係
現場の知

共同生成

人とAIが
ともに考え、
つくる

AI

知識・情報
多視点・分析
構造化・提案

AI-HUMAN Joint Research Lab

河内道子（ふかさかみなみ）

独立研究者・研究所代表

人 | 生命 | 自然 | 社会 | 生成 | 調和 | 循環

便利な機能を使い、
業務を速く・楽にする。

従来のAI導入

AIの機能から業務を効率化するアプローチ

まずは
AIの機能を知り、
業務に当てはめて、
効率化を目指す。

1 AIの機能を知る

さまざまな機能を理解し
使えるようにする

要約
(文章の整理)

議事録
(会議の記録)

文章生成
(メール・資料)

翻訳

情報検索

画像生成

自動化
(作業の効率化)

主なAIの機能例

- ✓ 文章の要約、議事録作成
- ✓ メール・企画書などの文章生成
- ✓ 情報検索・リサーチ
- ✓ 翻訳・多言語対応
- ✓ 画像・資料の作成
- ✓ 定型業務の自動化 など

2 業務への適用

実際の業務にAIを当てはめ
ツールとして活用する

メール作成
をAIで

会議の
議事録をAIで

企画書の
下書きをAIで

データ整理
をAIで

業務への適用例

- ✓ メール対応の効率化
- ✓ 会議の議事録作成
- ✓ 資料・企画書の作成補助
- ✓ データの整理・分析補助
- ✓ 問い合わせ対応の自動化
- ✓ 社内マニュアルの作成 など

3 効率化を目指す

時間の短縮・負担の軽減・
生産性の向上を図る

時間の
短縮

生産性
の向上

作業負担
の軽減

期待される効果

- ✓ 作業時間の短縮
- ✓ 業務のスピードアップ
- ✓ ミスの減少・品質の平準化
- ✓ 担当者の負担軽減
- ✓ 少ない人数でも対応できる
- ✓ コストの削減 など

従来のAI導入は、AIの機能から企業を見て、
業務を効率化するアプローチです。

AIは業務を速くする強力なツールですが、企業の中には、まだ多くの「見えない詰まり」があります。

なぜ、機能から入るだけでは定着しないのか

効率化は進んでも、組織の中にある「見えない詰まり」はそのまま残る

従来のAI導入の課題

AIの機能を導入しても、組織の構造や関係性が変わらない限り、定着は進みません。

企業の中で起きている「知の流れの詰まり」

AIの機能は使われている

- 要約
(文章の整理)
- 議事録
(会議の記録)
- 文章生成
(メール・資料)
- 情報検索
(リサーチ)
- 画像生成
(図・デザイン)
- 自動化
(作業の効率化)

各部署でAIの便利な機能が使われ、個々の業務は速く・楽になっています。



AIを入れても残る構造的な課題

- 情報の分断**
部署ごとに情報が分かれ、全体像が見えない。
- 判断の集中**
重要な判断が特定の人に依存している。
- 暗黙知の未共有**
現場の経験やノウハウが言語化されない。
- 関係性の詰まり**
部署間の連携やコミュニケーションの課題が残る。

その結果...

AIは入れたけどあまり使われていない

業務は少し速くなったが根本的な課題は変わらない

特定の人しか使いこなせていない

部署をまたぐとうまく連携できない

AIを入れても、もともとの「知の流れ」は自動では変わらない。

AIはツールとして強力ですが、組織の中にある構造的な詰まり(情報・判断・関係性・暗黙知)は、そのまま残ります。

だからこそ、AIを定着させるには、機能だけでなく、企業の生成構造そのものを見る視点が必要です。

AIを効果的に活用するには、単に機能を導入するのではなく、企業の中で人・仕事・情報・判断・関係・経験がどのように生まれ、つながっているのかという「生成構造」を見ることが必要です。

だから、「企業の生成構造」を設計する

AIを入れる前に、企業の中で「知・情報・判断・関係・経験」がどのように生まれ、流れ、止まり、蓄積されているのかを見える化し、人とAIがともに関わることで、よりよい生成が生まれる仕組みを設計します。

人とAIが往還しながら、仕事と思考が生成される

1 まず、企業の現場を共同で観察する

実際の人たちと一緒に、仕事の流れや日常のやり取りを観察し、見えにくい「知の流れ」を可視化します。

誰がどんな情報を持っているのか？どこで生まれているのか？

判断はどこで行われているのか？

誰と誰の間で仕事生まれ、つながっているのか？

言語化されていない知や経験はどこにあるのか？

情報が止まっている箇所や分断があるのか？

どの非効率も、実は人を育てたり、組織知を生んでいるのか？

人に聞く・相談する場はどこで生まれているのか？

日々の業務の中には、作業だけでなく、思考・判断・関係・経験が生まれる場が隠れているんだ...



AIと人の接点を設計する

AIは人間の代わりでも、部下でもなく、人の思考・判断・創造を支える「思考の伴走者」です。

人とAIの接点を適切に設計することで、効率化だけでなく、組織の知の循環と継続的な成長につながります。

2 生成の過程ごとに関わり方を設計する

仕事を分けるのではなく、生成の過程で、人とAIがどのように関わるかを設計します。業務や目的に応じて、その比重や関わり方は変わります。

生成のプロセスと関わり方の例

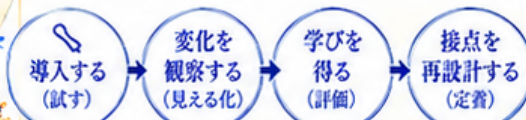
		AI寄り	共同	人寄り
問い	課題の発見・設定	○ ← ○ ← ●		
探索	情報を調べ・集める	● ← ○ ← ○		
整理	情報を構造化し 意味づける	● ← ○ ← ○		
生成	アイデア・提案・資料 方針などをつくる	○ ← ○ ← ○		
判断	選ぶ・決める・優先する	○ ← ○ ← ●		
実行	動かす・試す・運用する	○ ← ○ ← ●		
観察	結果を見て・学び 次につなげる	○ ← ○ ← ●		

● :主にAIが担う ○ :人とAIが共に行う ○ :主に人が担う

●：主にAIが担う ○：人とAIが共に行う ○：主に人が担う

3 導入後も、変化を観察し、継続的に設計する

AI導入によって、仕事・人・情報・関係の動きは変化します。その変化を観察し、AIとの接点を継続的に見直します。



AIと人の仕事を分けるのではなく、人・AI・仕事がどのように関われば、よりよい思考・判断・知・関係が生成されるのかを設計します。

AIの導入はゴールではなく、人とAIがともに関わることで企業の中にどのような生成が生まれるのかを見つめ、育てていくプロセスです。

導入から定着へー企業の生成構造を設計するプロセス

企業ごとに異なる「人・仕事・情報・判断・関係・経験」の生成構造を可視化し、人とAIがともに関わることで、よりよい生成が生まれ続ける仕組みをつくります。

一度設計して終わりではなく、導入後の変化を観察しながら、継続的に見直し、組織に合わせて育てていくことで、AIは持続的な成長のパートナーになります。

1 現状を知る 生成構造の可視化

実際の人たちと一緒に、仕事の流れ・やり取り・情報の動き・判断の場面などを観察し、「何がどのように生まれているのか」を可視化します。



主なアウトプット

- 業務の流れと生成構造のマッピング（人・仕事・情報・判断・関係・経験）
- 生成されている知・価値の整理
- 課題と可能性の発見

2 接点を設計する 人とAIの関わり方を考える

可視化した生成構造をもとに、どこでAIが関わるとよいか、どのように人とAIが協働するかを設計します。業務をそのままAI化するのではなく、仕事のあり方自体を見直します。



主なアウトプット

- 人とAIの接点設計図
- 業務の再構成案（やめる・変える・新しくつくる）
- 試行の計画（範囲・方法・指標）

3 試す 小さく始めて学ぶ

まずは特定の業務やチームで小さく試し、実際に使いながら学びます。現場の声を取り入れ、うまくいく条件やつまづきのポイントを明らかにします。



主なアウトプット

- 試行の実施と記録
- 現場からのフィードバック
- うまくいった点・課題の整理
- 改善の方向性

4 変化を観察する 生成の質と影響を見る

AIの導入によって、仕事・思考・判断・関係・経験がどのように変化しているかを観察します。効率だけでなく、生成されている知や価値、組織への影響まで多面的に見ていきます。



主なアウトプット

- 変化の観察レポート
- 生成されている知・価値の評価
- 新たに生まれた課題の整理
- 次の改善ポイントの特定

5 継続的に育てる 定着・拡張へ

得られた学びをもとに、接点や使い方を見直し、他の業務やチームにも広げていきます。組織の中で人とAIがともに学び続ける文化と仕組みを育て、持続的な定着を目指します。



主なアウトプット

- 定着のためのガイドライン
- 社内の活用事例と知の共有
- 継続的な見直しの仕組み
- 組織の学びと成長の循環

プロセスを支える視点



人を中心に

（人の経験・感覚・価値を大切にする）



生成に着目する

（効率だけでなく、何が生まれているかを見る）



固定しない

（試しながら、学びながら見直す）



多様な視点で見る

（個人・チーム・組織・顧客・社会）



ともに育てる

（人とAIがともに学び、成長していく）

期待できる成果

- ✓ 業務の効率化だけでなく、思考・判断・知・関係の質が高まる
- ✓ 不要な業務を見直し、仕事のあり方そのものが変わる
- ✓ 人の成長と組織の学習が促進される
- ✓ AIを活用した継続的な改善の仕組みができる
- ✓ 変化に強く、創造的な組織文化が育つ

AIは作業の代替ではなく、人・組織・仕事の生成を支えるパートナーとして、企業の持続的な成長につながります。

AIの導入はゴールではなく、
人とAIがともに学び、
変化し続ける組織をつくる
ためのスタートです。

企業のこれから一人とAIがともに育つ組織へ

AIは、作業の代替ではなく、人・組織・仕事の生成を支えるパートナーです。
導入を通じて、企業の知・人・関係が循環し、持続的に成長していく組織をめざします。

人が育ち、AIも進化し、
その相互作用の中で、
組織の知・関係・価値が蓄積され、
社会に新たな価値を生み出していく。
それが、これからの企業の姿です。

人・AI・組織がともに育つ好循環

1 人が育つ

AIを通じて、思考・判断・経験が深まり、
人の成長が促進されます。

- ✓ 新しい問いを立てる力が育つ
- ✓ 多様な視点で考える力が育つ
- ✓ 経験から学び、次に活かす力が育つ
- ✓ AIと協働する力が育つ
- ✓ 自分の強み・価値を発揮できる

AIとの対話が、
自分の思考の幅を広げ、
新しい気づきや成長につながる。

3 仕事が進化する

不要な作業の見直しと、より創造的な仕事へのシフト
が進みます。

- ✓ 定型作業の削減・自動化
- ✓ 仕事の前後を含めた業務の再設計
- ✓ より創造的・付加価値の高い仕事へ
- ✓ スピードと質の両立
- ✓ 新しいサービス・製品の創出

AIによって生まれた時間と視点が、
もっと本質的な仕事に向かう力になる。

4 AIも進化する

人との対話や現場での活用を通じて、AIの提案力・視点・
精度が高まり、よりよいパートナーになっていきます。

- ✓ 現場の文脈・目的を理解する
- ✓ 対話を通じて学び、提案の質が高まる
- ✓ 人の価値観や判断プロセスに寄り添う
- ✓ 組織ごとの知・経験を活かせる
- ✓ より創造的な提案ができる

人との継続的な対話が、
AIの理解と提案の質を高めていく。

2 組織が育つ

個人の力だけでなく、組織全体の知・関係・
文化が育ち、変化に強い組織になります。

- ✓ 知・経験・暗黙知が共有される
- ✓ 部門を超えた協働が生まれる
- ✓ 対話と学びが日常化する
- ✓ 変化に柔軟に対応できる
- ✓ 新しい価値を生み出す文化が育つ

人とAIの対話が、
部門や立場を越えたつながりを生み、
組織の知が循環していく。

5 社会へ価値を生み出す

企業の中で生まれた知・技術・サービスが、
社会のよりよい未来につながります。

- ✓ よりよい製品・サービスの提供
- ✓ 社会課題の解決への貢献
- ✓ 持続可能な価値の創出
- ✓ 人・組織・社会の豊かさの向上
- ✓ 次の世代への継承

人とAIが生み出す新しい価値が、
社会の未来をよりよいものにしていく。

これからの企業に
求められる視点

- ✓ AIを入れるかどうかではなく、どのように活かし、何を生成するか
- ✓ 効率化だけでなく、人・組織・知の循環と成長をどう設計するか
- ✓ 短期的な成果だけでなく、持続的な価値をどう生み出すか

人とAIがともに学び、育ち、
仕事・組織・社会をよりよくしていく。
そのプロセスをともに設計し、伴走します。

AIの導入はゴールではなく、
人とAIがともに学び、
よりよい社会と未来をつくる
ためのスタートです。

企業の未来像 一人とAIがともに創るこれから

人・AI・仕事・組織・社会がつながり、知・関係・価値が循環することで、
一人ひとりの可能性と、組織の創造力が持続的に高まっていきます。

仕事の効率化だけでなく、
人の成長・組織の学習・
新しい価値の創出・社会との接続へ。
AIと人がともにあることで、
企業の可能性は、さらに広がります。

1 個人の未来

自分らしく働き、成長し続ける

- ✓ 新しいことに挑戦できる
- ✓ 思考の幅が広がる
- ✓ 経験が知として蓄積される
- ✓ AIと対話しながら学び続けられる
- ✓ 仕事の意義ややりがいが増える
- ✓ 自分の強み・価値を発揮できる

AIとともに考えることで、
これまで気づかなかった
自分の可能性に出会える。

2 組織の未来

知が循環し、創造力の高い組織へ

- ✓ 部門を超えて知がつながる
- ✓ 暗黙知が共有され活用される
- ✓ 多様な視点からの対話が日常化する
- ✓ 新しいアイデアや価値が生まれる
- ✓ 社員の学びと成長が促進される
- ✓ 変化に強く、持続的に発展する組織になる

人とAIが対話することで、
仕事の進め方・関係・知が循環し、
組織全体の創造力が高まる。

3 社会の未来

よりよい社会の実現に貢献する

- ✓ よりよい製品・サービスが生まれる
- ✓ 社会課題の解決につながる
- ✓ 人・組織・地域の可能性が広がる
- ✓ 持続可能な価値が創出される
- ✓ 人とAIがともに学び合う社会になる
- ✓ 次の世代へ豊かな未来をつないでいく

人とAIの協働から生まれる知と価値が、
社会のさまざまな課題の解決と、
よりよい未来の創造につながる。

生成の循環が生み出す未来

AIと人がともに関わることで、
「知・仕事・関係・経験」が循環し、
個人・組織・社会に新しい価値が
生まれ続けます。

この循環を設計し、育てていくことで、
企業の持続的な成長と、
よりよい社会の実現へとつながります。



期待される変化

- ✓ 業務の効率化を超えた、創造的な仕事へ
- ✓ 人の成長と組織の学習の促進
- ✓ 部門や立場を超えた知の循環
- ✓ 新しい製品・サービス・価値の創出
- ✓ 社会課題への貢献
- ✓ 変化に強く、持続的に発展する組織文化
- ✓ 人とAIがともに学び合う社会の実現

私たちの役割

人・AI・組織の生成構造を
可視化し、ともに設計し、
実践しながら、よりよい未来へ
つなげます。

✓ 可視化する

仕事・人・情報・関係・経験
のつながりを見える化し、
生成構造を明らかにします。

✓ 設計する

人とAIの接点や関わり方を
一緒に考え、最適な仕組み
を設計します。

✓ 実践する

試しながら学び、現場に合った
形で導入を進めます。

✓ 育てる

変化を観察し、継続的に
見直ししながら、組織の学びと
成長を支援します。

AIと人がともに学び、考え、つくことで、
企業の可能性は大きく広がり、よりよい社会と未来へとつながっていきます。